



Meiji University
Center for Mathematical Modeling and Applications

CMMMA Colloquium

第30回 現象数理学コロキウム

30

ネット時代のプライバシーや 公平性確保に向けて 私たちが考えること



講演者: 佐古 和恵 Kazue SAKO

NEC セキュリティ研究所 技術主幹
日本応用数学会会長

2017年 12月8日(金)

16:30~17:30

会場: 明治大学 中野キャンパス
高層棟4階 402教室

※ 参加費無料、事前申し込み不要です。どなたでもご参加いただけます。

明治大学先端数理科学インスティテュート

文部科学省 共同利用・共同研究拠点
現象数理学研究拠点



Abstract:

あらゆるものがネットにつながって、私たちの行動を逐一記録し、その誤りがのっているかもしれないデータを元に推測し、ある意図をもって、私たちに提示する情報を決める。それは遠い未来の話ではなく、一部は既に起きている現実です。デジタルデータは瞬時に複製され光の速度で遠いところまで到達でき、さらにコンピュータは人間が想像できない計算を瞬時に完了するという、人間の認知能力を超えたものになっています。人間が長い年月をかけて築いてきた「妥当な常識」や「適切な慣習」が通用しない社会になっています。

それはある意味では、いままで不可能だったことを可能にするすばらしい技術でもあり、私たちは多くの恩恵を受けています。

しかし、その反面、被っている副作用があるとしたら、それをしっかり認識する必要があるのではないのでしょうか。

数学の理論をベースに研究されてきた暗号技術は、アルゴリズムやコンピュータの性能を活用して、画期的な機能をもたらしてくれました。どれだけデータがあろうとも、どれだけ計算量があろうとも、秘密の鍵を知らなければ解けない暗号化手法。この手法は、逆に「秘密鍵さえ知っていれば簡単に復号できる」という性質も持っています。これによって、一般庶民がスマホやパソコンを使えば、スーパーコンピュータを駆使する大組織でも解けない暗号を作れ、個人の秘密を守ることができるのです。暗号技術は庶民の味方。このような技術が、一般の個人のプライバシーや公平性を確保することに活用できるのです。

そのような社会にするために、私たちは何ができるのか、みなさんと一緒に議論したいと思います。

■連絡先

東京都中野区中野 4-21-1 明治大学中野キャンパス 8階
明治大学先端数理科学インスティテュート

Tel. 03-5343-8067 E-mail : mims@mics.meiji.ac.jp